

# 《バンコク宣言 2016》

於、タイ国ナコン・パトム県ブツダモントン、及び

バンコク国連会議センター

2016年5月22日ー23日

## 第13回国連ウェーサクの日祝賀式典

われわれは2016年5月22・23日(BE2559)に85の国と地域から集まった。昨年同様、国連ウェーサクの日はマハチュラロンコン仏教大学によって盛大に催され、光栄なことにタイ国サンガの意向の下、タイ国政府の支援も得ることができた。

国連ウェーサクの日祝典開催中、われわれは相互理解と全仏教宗派の個人・組織間の協力を促進する「世界平和への仏教の道」をテーマに探求した。「平和のための仏教教育」と「世界平和のための環境責任に対する仏教の貢献」という議題を掲げた二つのシンポジウムが並行して開催された。

開会式後の基調講演では、参加者に八正道の教えや五蘊の分析で明確にされている倫理的、精神的、認識的訓練の重要性が改めて訴えかけられ、世界平和の決定的な構成要素として正義、良好なガバナンス、個人・家族・コミュニティー・国家の安全が重要な役割を果たすことが強調された。

この盛大な国連ウェーサクの日祝典と会議の結果、満場一致で次のような項目が決議された。

- ① 戦争は実に状態であり、世界平和は法律では制定できないことが指摘された。地球市民の心の中にある紛争や暴力の根源を辿り、教育は人類を人間・世界経済・地球市民の統合へと突き動かす手助けをする強力な手段として認識する。

- ② ICDV の執行委員会の推薦のもとに、参加者は、3つの異なるパネルの専門家及び仏教指導者に考察され承認されている紙媒体の共通仏教テキストを広く一般に利用可能にさせるという決定に同意した。
- ③ 「平和への仏教の道」に関連する問題の議論の中で、釈尊の教えの真髄の一つは平和と非暴力の推進であることが強調された。仏教は常に、個人、コミュニティー、国家もしくは組織間の論争の平和的な解決の道を大切にしてきた。過剰な競争は避けるべきであり、いかなる暴力の形や兆しも避けるべきである。従って全般的に仏教は平和と同義である。仏教では断固として個人の選択の自由を尊重し、人間の思想や考え方の多様性を大切にするため、他者を欺く考え方を否定する。仏教では、忍耐が根本教義の一つとされる。
- ④ 参加者は、2600 年以上も前に釈尊によって説かれた平和の普遍的なメッセージ、善良な意志、そして慈悲が今日以上に必要とされていることはないという強い信念を提示した。仏教徒が「中道」と呼ぶものは、極端論の思わぬ危険性の回避を探求する生き方である。節度感、仏教徒の他者に対する行為の基盤となる。これがわれわれ地球村においていつでも問題となる過剰性を抑止してくれることを願う。
- ⑤ 「世界平和のための環境責任に対する仏教の貢献」に関して、どんなに些細なことであっても、全人類の福祉は信仰として重要であり懸念すべきことである。これは生物圏全体を包括し、また現世代だけに限らず、次世代の福祉も含むものである。
- ⑥ 世界中の仏教コミュニティー間において仏道に関して共通理解と集合的發展をさらに促進するために、参加者は 5 月の満月の日に、国連本部及び地域事務所で読経と瞑想を行い、祈りを捧げることに合意した。
- ⑦ 参加者は、昨年 12 月にフランス・パリで開催されていた国連気候変動枠組条約第 21 回締約国会議 (COP21) によって定義され、すでに 177 カ国のサインと 15 カ国に批准されている新たに設立された世界標準を支援した。
- ⑧ 国連ウェーサクの日の祝賀式典にあたり、長年にわたり多大な支援と重要な役割を果たしてきたタイ国に感謝し、明 2017 年 (BE2560) にスリランカで 14 回国連ウェーサクの日を開催することを承認し、主催するスリランカを支援することに同意した。